

明日のために今日はある

コミュニティヘルスケア—Vol 1

1981・11

---

---

# “明日の為に今日はある”

HPI創立理事長 ダリル・ビーチ

---

—人類の歴史において、今日の日を明日の為に献げて生きる事が至高の価値を持つ時もあり、我々はまさにその様な時代に生きているのである。—ビーチ

## § 序

今日はかくも多勢のHPIモデル会員各位にお集り頂きまして本当に有難うございます。また私の旧来の親友であるビーグリー博士をここにお招きする事ができ、非常に嬉しく思います。私たちは15年ないし20年前、スコットランドのエジンバラで初めて出会って以来、様々の機会に世界各国で会合を重ねて参りました。私たちが10数年来討議し続けてきた事柄は、今や非常に多勢の人々の注意を集める様になりました。

私たちのひとつの共通点は共に自分が生まれ育った地とは異なる所で、活動してきたという事です。おそらくこの事によって、物事に対して異なる見解を持つ事が出来る様になったと思います。というのは、私たちは自分のおいたちの背景と若かりし頃、自分を取り巻いていた人々の考え方を比較し、さらにはこれと人生の後半に生きていく事になった地域の環境や、人々を比較できるからです。

若い頃から取り組んできた問題の性格のゆえでしょうか。私たちは少く共、国家の範囲で問題解決を計る事を余儀なくされてきました。ビーグリー博士は英国で非常に活躍してこられ、かつては国家レベルでの問題解決に従事してお

られました。ちょうど私が日本にやって来た頃、ビーグリー博士は時を同じくして、私の出身地であるアメリカへお渡りになったのです。

ごくわずかの話し合いを通じて、すぐに私たちは強い共感の念を抱く様になりました。共に歩む道は異なっている、広範囲の視野で将来を捉えるという共通点に気づいたのです。以来ビーグリー博士とご一緒する事は私にとって大変心楽しい経験であり、私たちの活動に対する先生のご質問やご忠告を大変感謝しています。先生は国際舞台でも目ざましい活躍をされており、国際組織においても最も著名な方のお一人として先生のご意見は高く評価されています。従って、今後私たちが検討をお願いすべき方々の中でも、先生は最も重要な人物のお一人だと考えています。



左からビーグリー教授(ブリテ イッシュ コロンビア大学—カナダ) カーク教授(オタゴ大学—ニュージーランド) HPI創立理事長Dr.ダリル・ビーチ

## § 地球時代の到来

—— Final Scope (窮極範囲) に生きる ——

過去2、30年の間に社会は急速に変化してきましたが、今1980年に私たちの大半の者は、世界に何かさらに大きな変化がまさに起こらんとしている事を、感じ取っていると思います。多くの者は一体何が起ころうとしているのか予知しようとするでしょうが、現時点において過去の出来事に歴史的な分析を加えながら、正確な予測をたてるという事は何にもまして重要です。私たちはどうやら全く新しい世界情勢に直面し、きわめて不安定な時期に突入する事になりそうですが、それは目をそらしたり逃げたり出来ない何かのなのです。—— 今後起ころうとしている何かから回避できる所は、世界広しといえども何処にも残されてはいない様です。

2、3世代前の先祖、つまり私たちの祖父の祖父が生きていた時代には、個人にとっての世界とはとても狭い範囲に限られていました。おそらく現在の市を少々上回る程度、或いは最大でも県どまりだったでしょう。それを越えた地域はすべて想像でしかなかった場合が多いと思います。つまり世界中の人々にとって行動上の、或いは物理的な意味での世界とは非常に限定されていた訳です。ところが通信、交通面でのテクノロジーの爆発的進歩により、人々の認識する世界の範囲は急速に広がり、わずかの間に世界中の交流がいかに深まったかは、過去10年間をふり返ってみても明白です。

現在私たちは人類という名において、窮極的な範囲（地球規模）で問題解決を計らねばならぬ時代に生きる様になりました。3、40年前には自分たちの生活が世界規模の決定によって影響されるだろうという事を、真剣に考えていたのはごく一握りの人々だったでしょう。他方、今日では逆に今後10年間のうちに自分たちの生活が世界規模の決定に影響を受ける事はないと信ずる者は、ごくわずかしかないでしょう。

人々が自己と人類全体のつながりを狭い範囲かつ短い期間においてのみ捉えるだけで事足りた時代には、人生ははるかに単純明快だった事でしょう。特にもし私たちが感覚の領域で、じかに見たり触れたりし得る対象との関連においてのみ、人生を捉えてよいのなら事は簡単です。ところが私たちの決定が自分の感覚に基いて分析できない時点に到来、事態ははるかに深刻になりました。何故なら、そうなる私たちの決定は自分の感覚能力及びフィードバックの能力を越えた、不特定多数の人々に影響を及ぼし得るからです。従って今後私たちが将来の予測に基き、計画を立てる場合には従来とは異なるフィードバック・メカニズムが必要ですし、有効なデータ・・・つまり普遍的な人間の条件を基盤にしたデータも必要です。人間に適合するものは何か what is humanistic を決定し、選択してゆく事が極めて重要です。そしてこの事は私たちが考慮すべき範囲——フィードバックをもとに拡大してゆく効果の波及範囲が急速に広がるにつれて、困難を極める事になりました。

将来の見通しをたてるにあたり、世界には解決を待つ問題が余りに多く在りすぎ、自分の残りの人生において一体何に主力を注ぐべきか判らず、途方にくれているものが少なくありません。唯一はっきり判っている事は、とに角何かしなくてはならないという事です。但し特に状況が、非常に不安定である現在、何かすべきだという決定を下し多数の人々に影響を及ぼす活動に踏み切る前に、まず慎重に反省すべきです。私たちはややもすると、目前の興味の対象に対し考えるより先に何らかの働きかけを行ない、活動そのものに没頭してしまいがちですが、自分たちの活動が大きな危険を招く可能性をはらんでいる状況にあっては、まず手指を動かして行動を開始する前に一歩下って反省する時間を持つべきです。自分たちの様々な活動の長期

的、短期的又即時の影響を考慮し、又どの様な組織的背景の下でこの様な活動が意味を持つのか、或いは全体として将来人類に恩恵をもたらすものかを考えなくてはなりません。

## § テクノロジーの 原則・確立を

——細分化から統合への転換期——

今まで私はなぜ私たちの組織に、H.P.I.という名がつけられたのかという質問をよく受けてきましたので、この点について人間の存在に考察を加えながらお答えしたいと思います。

通常組織に名をつける場合には、組織が従事している活動から直接名をつけるものです。もし歯科医療に従事しているのなら、組織の名に歯科云々という言葉がついているのが普通です。HPIを設立したのは10年程前でしたが、将来を展望した時ある職業を中心にした組織は、いずれ姿を消すだろうと考えました。即ち将来のテクノロジーの発展を予測すると、完了し終わらねばならぬ任務目的(task)を中心にした、任務志向の組織が生き残れる余地は余りなからうと考えました。テクノロジーの開発が進み、その潜在的可能性が探究され人間の持つ可能性、人間の熟練技能、及び社会に対する効果などとの関連でその定義が進むとテクノロジーの適用範囲はさらに広がり、ある特定の職業上の任務に限定してテクノロジーを認識する事は段々困難になってくるのです。

テクノロジーが試行錯誤の中で模索研究されていた時代には、テクノロジーの細分化が進みました。私が大学を卒業した頃がそうでしたがこれは歯科のテクノロジーであるとか、これは眼科のテクノロジー、これは自動車のテクノロジーである等、各々の専門分野が個別に強調される傾向がありました。これらの特定の領域に取り組み人々の興味のパターンにより、細分化

が進む傾向もありましたが、統合の時代に入り、テクニックにはそれ自体の持つ原則があるという認識に到達した今、歯科テクノロジーという言葉をするよりテクニックの原則の一つの現われとして歯科のテクニックを捉える方がふさわしいでしょう。テクニックの原則を明確に定義する事——これは今世界の重大問題の一つであり、ひとたび原則が確立されれば、テクニックという名のもとにおいてすべては、社会的ニーズや要求或いは個人的要望を満たす為に適用されるひとつの現われ方とみなされるでしょう。

過去の日本文化においてこの原則は茶道、華道、剣道などの各種作法にみられる人間の行動の定められた型や、たたみ、家の造りなどにおける高度の規格などから分る様に、きわめて明確に規定されてきました。そしてこの点が、いわゆる日本文化として認識されるものの基盤であったと思います。但し、もちろん物質やエネルギーの使用について可能性の多くは、未知であったという違いがあります。西洋人は非常に活発な探究者として、未知の領域を開拓する傾向があったのに対し、日本人はこれらの原則をいかに応用するかを定義する事に、強い関心を寄せていたのだと思います。現在かつての日本人の思考法に回帰してみる事は、とても価値のある事ではないでしょうか。

もう一つ過去には、原則の定義とその応用範囲が日本列島に限られており、又日本で調達し得る資源に限られていましたが、今日ではすべては世界を対象範囲とした定義であり、世界規模での結果が生じます。テクノロジーの原則を適用する社会的条件を定義する際、もはや私たちはある地域、又は地方に限定して考える訳にはいかないのです。もし日本文化の原則が世界規模のテクノロジーに適用されたなら、真の革命の意味が判ることでしょう。それは認識の革命であり、おそらく暴力革命から私たちを救ってくれるものだと思います。

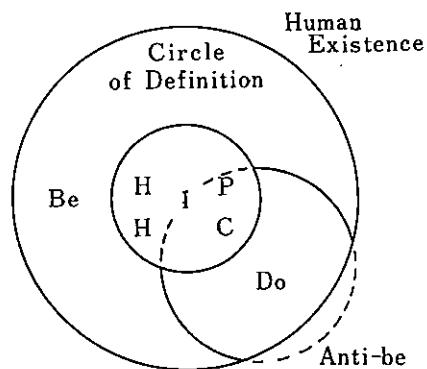
## § 人間の存在とPerformance

— H. P. I. の名の由来 —

人間の存在 (Human Existence) は大別すると存在する事 (being) と、行為する事 (doing) に分けられますが、人間存在の意義を自己も他者も含めて考察する時、存在する事 (being) の条件

(注：人間が普遍的に共有する生理的反應の諸条件) — 私たちが人間 (human being) と呼ばれるゆえんのところ。 — を大きな範囲として捉え、行為する事 (doing) (注：明らかな目的又は動機を有し、意識的に行なわれる動作) は、存在する事 (being) の枠内に含まれる小さな範囲として把握すべきだと思います。特に今日この事は、強く念頭に置くべきです行為する事 (doing) は存在する事 (being) の一部ではありませんが、麻薬や覚醒剤など有害な薬物を摂取する事により、我が身を亡すという個人のレベルから核戦争による破壊という人類全体のレベルまで、存在の条件に反する行為 (anti-be) を行なう可能性も多々あるからです。

下図に描いた中央の円は定義の円と言えます。存在する事 (being) とは何を意味しているか、行為する事 (doing) とは何であるかを莫然と感じているにとどまるのならば、それは自分の個人的直感に過ぎない訳ですが、事態が不安定になり各自のストレスのレベルが高くなっていくと、自己と他者との関係にも摩擦が生じる様になります。…やがて私たちにはこの不必要なス



トレスの要素や原因を探し始め、存在する事 (being) 及び行為する事 (doing) とは何であるかを定義ないし、明示しようと試みるのです。

存在する事 (being) の側面には人間の条件の定義がありません。人間とは精神と肉体の相互関係と定義する事ができ、この前提として、両者の間には均衡のとれた状態が存在し得るという事があります。英語では行為をする事 (doing) を定義すると、Performance — 見方によると、Per (注：～により、～ごとに) という前置詞とForm という単語が組み合わさっているとも考えられます。 — という言葉で表わすのが最もふさわしいと思います。この語は今でこそ色々異なるニュアンスを持っていますが (注：1. 遂行、実行 2. 仕事、出来ばえ 3. 機械の性能 4. 演奏、公演等)、本来的にはdefined doing (定義した行為又は活動) という意味であったと思います。Human performance とはよく字義を考えると存在する事 (being) と行為する事 (doing) の関係を定義する試みを指している事が判るでしょう。これは英語においては、組織の名として考え得る最良の言葉でした。

まず存在する事 (being) について、幾つかの要素があります。例えば人間の姿勢それ自体が存在する事の一要素です。 — 私たちは地球の表面で生きており、又地上の全ての人間に等しく加わる重力の場の中で生きているからです。

姿勢保持筋は人間が外界に対して、何らかの働きかけや動きを持たない場合でも、不随意筋、内臓筋と関連し正しい配置において、重力に逆らって私たちの姿勢を保っているのです。これが基本的な受動態であり、東洋では伝統的に禅などを通じて重視されてきた姿勢です。

姿勢から価値ある位置 (position) が導きだされ価値ある位置から動き (movement) が、そして動きから定義した行為 (performance) が導きだされます。換言すると、余計な動きの無い事が performance であるとも言えます。私たちは

自らを研究所或いは定義を促進する為に存在する組織(Institute)と名づけた以上、performanceの意味する所を出来る限り明確に定義するべく努力するつもりです。

健康管理(Health Care)において、健康は人間の条件(being)として定義する事ができ、他方管理(注:医療行為)は、行為する事(doing)の範ちゅうに入りますが、もし私たちがその内容及び任務を明確に定義して活動するなら performanceとしてみなされます。

### § 人間存在の二律背反

Performanceに興味を抱いて活動を行なう様になると仕事と遊び又は余暇という区別が消滅し、自分の価値観全体に変化が起こります。これはどういう事かと言いますと、何らかの活動を義務として課せられた仕事だからというので行なう場合仕事自体に自分の興味が注がれていない事が往々にしてあります。他方余暇の時間には、自分の興味に基いて趣味なり遊びなり自分が自発的にしたいと思う事をする、即ち自分なりの可能性を追求し、或いは発揮している時間であると考えれば両者ははっきり区別されてしまいます。これは人類の歴史を通じて人間が感じてきた人間存在のジレンマ、或いは二律背反であると言えます。つまり人間の活動は大別して1)人間の生存、安全、及び健康を各々維持する為の活動、即ち社会の支持構造に相当する部分と 2)人間の潜在的可能性を顕在化してゆく活動に、分けられます。私たちは往々にして可能性の追求と社会を維持する活動は異なるものだと認識しがちで、私たちの努力や注意を維持活動に注げば、潜在的可能性の追求の方はなおざりになってしまい、又可能性に取り組む時間もなくなるだろうと感じる事が多いと思います。即ち両者の間に強い相反関係があるというのが、現在の一般的認識なのです。

私たちが人間の生存、安全或いは健康を維持

する為の、必須の活動(自己に対してと他者に対してにかかわらず)を行なう時に、これをperformanceという範ちゅうにおいてとらえ、テクニックの原則をperformanceの原則に関係づけようとする、前述の二律背反はおそらくは真には存在しないものだという事、人間の可能性はおそらく、維持活動の中にも探究し得るという事が判り始めます。私たちが従事する健康管理及び医療行為(care)は、performanceの一部であり、performanceは人間の可能性追求の領域にあるものだという、認識の転換が起こると自分や自分を取り巻く世界全体についての、考え方も全く違ったものになるでしょう。さらに意志決定に臨んでも、重要なのは単に今日だけでなく、私たちの活動の長期的な結果はどうなるのか、5年後、10年後、20年後、30年後……の結果を真剣に考慮する様になるでしょう。

### § 歯科医の象徴的価値

従って、私たちは単に今日の人々に責任を持つだけでなく、明日の人々——私たちの子供の子供の世代にも責任を持つべきなのです。責任の対象となる時期が急速に伸びるにつれ、世界よりも狭い範囲で活動の波及効果を捉える事は許されなくなってきます。歯科医療と呼ばれるひとつの小さな分野は、世界規模での問題解決、テクノロジーの応用、世界に適用すべき生活条件、存在(being)の条件の追求という文脈の中においてのみ、価値を持つものです。歯科医療は、テクノロジー全体の中ではごく狭い領域を占めているに過ぎないかも知れませんが、世界資源の消費量もさほど多くはありませんし、世界人口に占める歯科医の比率も決して高い訳ではありませんが、人間の多種多様な活動の中で、極めて特異な存在価値を歯科医療は持っている様に思います。ドイツの偉大な作家Günter Grassは10年程前に「局部麻酔剤」という題の小説を書いています。彼は歯科医ではなく哲学

者であり、果たして同世代の作家の中で最も重要な一人に数えられるかどうかが問われています。彼の著作の中で最もすぐれた作品であろうとみなされている前述の小説の中で、彼は革命家と対比させて描く対象に歯科医を選んだのです。そして彼は人間存在における歯科医療の存在意義を理解しようとしていました。思うに、歯科医療の特異性は人間の生体組織と無機物質の境界面(Interface)を、取り扱うことにあるのではないのでしょうか。歯科医はいかなる用途であれ、世界中で最高の回転速度を持つ機器を扱い、歯科材料として用いられる無機物質についても、詳細な知識を持ち厳密に定義した条件が要求されます。他方では、人間とも非常に密接しなくてはならず、精神及び肉体の両方に深くかかわってゆかねばなりません。この様な異質な2つの対象を結びつける事で成りたつ活動は、他に例をみないと思います。ある意味では人間の様々な活動が、濃縮された形で象徴されているとも考えられますので、私たちがテクノロジーの適用や世界資源の使用を適正に定義してゆくことによって、世界に模範を示すという象徴的な役割をも担うべきではないのでしょうか。

## § 終わりに

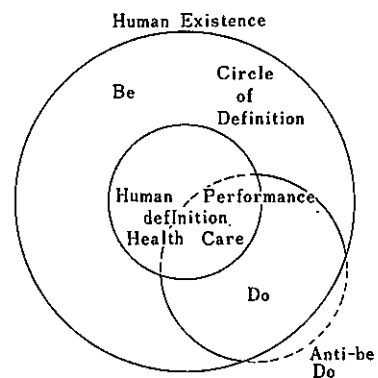
今日世界の人々は、真剣に私たちを注目し始めています。まだ私たちの主張が正しいかどうか疑問視されている点多々あります。多くの問題もまた抱えています。しかし、もし私たちが問題をすべて解決してしまったら、HPIモデルは存在する必要はなくなるのです。なぜならモデルは、検討を受ける為にこそ存在しているからです。そして私たちの定義と、その洗練をくり返そうとする努力は、砂嵐の吹き荒れる混迷の砂漠において、秩序のオアシスを象徴する事になるでしょう。

かつてHPIモデルを設立すべきだという決定を下した頃、私にとって一睡も出来ない夜が続

きました。この様な重大な責任を引き受ける事が、ちゅうちょされたのです。私は決して自ら苦勞を探し求める性格ではないので、出来れば自分の人生において、新たな責任を引き受ける事などしたくなかったのです。しかし、将来の世界状況を見通し今後の事態を予測した時、他になすすべは何もない様に思われました。もし私たちが今日のみで満足していたなら、HPIは生まれていなかったでしょう。明日の日を考えた時、モデル設立に代わる策を思いつく事は出来ませんでした。

私たちは今日ここに一堂に会して自分とは何であるのかそして私たちとは何であるのか、何をすべきかを考えています。日本各地から集まってきた私たちは、各々に異なる個人であり人間ですが、すべての者がある共通項を持っています。私たちはすべて将来にふさわしい条件を作りあげようと努力する者です。もちろん誰しも今日を生きてゆかねばなりません、明日の為に今日生きるのです。

私は避け難い必然をいたし方なく受け入れ、組織作りに取り組みねばなるまいという不承不承の思いで、立ちあがった次第ではありますが、皆様の様な献身的な同胞を得、今日という日を分かち合えた事を心から嬉しく思います。今日は明日の為に在るのだという事を胸に、今後も力を合わせて未来へ歩んでゆきましょう。ご静聴どうも有難うございました。



800613HPI総会講演録 訳 三明